



First Friends Recycling Truck Set

リサイクル資源の回収作業を題材に、分類や手順を考える活動、ごっこ遊びを楽しめます。言葉の発達、原因と結果の関係への理解（回収車の荷台が傾く動き）、地域社会を大切にすることについての会話を支えます。

内容

トラック、容器2つ、フィギュア2体

対象市場

家庭・教育の両方

■ セットの内容



First Friends Garbage Truck
24 × 19 × 18 cm



First Friends Boy



First Friends Girl



リサイクル用コンテナ2つ

■ 子どもが学ぶこと



原因と結果

取っ手を引くと容器が傾きます。子どもが動かす仕掛けで、結果が見えて聞こえます。



分類

容器が2つ、ものの種類が2つ。紙はこちら、びんはあちら。目的のある分類です。



世界を知る

ごみ箱のあとでごみはどこへ行くのか、誰が集めるのか、なぜ先に分けるのか。



社会的な関わりを伴う遊び

運転する人と積む人。ふたりでないとできない2つの仕事で、途中で交代します。



順序立て

ごみ箱を出す、トラックが来る、ごみを積み込む、次の家へ向かう。ごみ収集の順番を、お子様が遊びの中で再現できます。



言葉

いっぱい・からっぽ、重い・軽い、傾ける・持ち上げる、はじめ・次。動作とセットになった言葉です。

■ テーマ

リサイクル

私たちが助けてくれる人

わたしたちの通り

分類

いっぱい、からっぽ

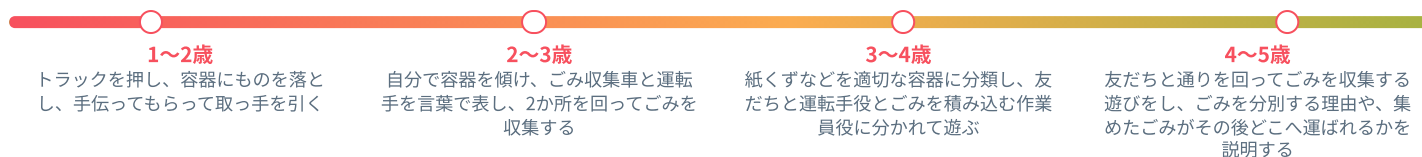
素材

人々の仕事



Learning through play

■ ひとつのセットで5年間遊べる



■ セットの4つの使い方

ひとりで発見する：12か月以上
トラックと容器1つ。押す、落とす、傾ける、見つける。

大人と2人で遊ぶ：18か月以上
ごみ収集の巡回、どちらのごみ箱に入れるか、いっぱいときっぱり。大人が通りの場面を用意し、お子様がごみ収集の仕事を演じます。

少人数グループ：3～5歳
運転手とごみ収集作業員の役を演じたり、住民がごみ箱を出す通り全体の様子を再現したりします。

常設の遊びコーナー
First Friendsのおうちの外にトラックを止め、清潔な紙くずなどを入れた箱を添えます。子どもたちは促されなくても、ごみ収集の巡回遊びを始めます。

■ 保育の現場で

小さな部品なし。フィギュアは12.5 cm。歯固めにも安心

拭いてきれいにできます。砂のトレイや屋外にも使えます

容器はトラックの中にしまえます。深いトレイ1つに収まります

フィギュアとトラックは1つずつ購入できます。セットではなく1つだけ交換できます

■ 観察のポイント

☐ ひとりで傾ける取っ手を引き、結果を見ようとしていますか？

☐ ものが片方のごみ箱に入り、もう片方に入らない理由を言えますか？

☐ 数える前に予想し、次の予想を直せますか？

☐ ごみ収集の巡回で、次にどの家へ行くかわかっていますか？

☐ 運転手役のお子様は、ごみ収集作業員の「出発！」という合図を待てますか？

☐ ごみを分別することと、収集したごみが集積所でどのように扱われるかを結びつけて考えられますか？

■ 学びの領域

身体の発達

コミュニケーションと言葉

人間関係と心の発達

身近な世界の理解

数学

表現活動

■ セットを広げる

このトラックは、レスキュー車や道路工事の人と同じ通りに置きたいものです。一緒に並べると、「私たちが助けてくれる人」はリストではなく、ひとつの場所になります。

First Friends Road Worker

First Friends Police Car

First Friends House

First Friends Scooter with Puppy



1 ゴーっと入れよう

12〜30か月
子ども1人+大人

用意するもの

トラックと容器1つ。安全なくず3、4個（葉っぱ、びんのふた、くしゃくしゃの紙）。

進め方

1. 容器にくずを1つ落とします。「入った」。
2. 容器をひっかけます。一緒に取っ手を引きます。「ごーっ！」落ちるのを見ます。
3. トラックの後ろを見ます。「どこへ行ったかな？」見つけます。
4. トラックを空にして、もう一度。子どもにひとりで取っ手を引いてもらいます。

学びのねらい

原因と結果

手先の器用さ

入れる・出す

対象の永続性

やさしく — 大人が傾け、子どもが落として、見ます。

難しく — くずを2つ入れて傾け、後ろに入ったものを数えます。

注目ポイント

消えたものを探して、トラックの荷台をのぞき込みますか？ 見えなくなっても存在していると理解することは、対象の永続性を示しています。また、自分で取っ手を引けることは、仕掛けの働きを理解していることを示します。

2 ごみ収集の巡回

18か月〜3歳
子ども1〜2人+大人

用意するもの

トラック、容器2つ、運転手。床の道に沿って、家に見立てた箱か積み木を3つ。

進め方

1. どの家の前にもごみ箱を出します。「トラックが来るよ！」
2. 最初の家へ走ります。止まります。ごみ箱を傾けます。元に戻します。
3. 次の家へ。くり返します。進みながら「はじめに」「次に」「最後に」と言います。
4. 車庫に戻ります。「終わったかな？」のごみ箱も空か確かめます。

学びのねらい

順序立て

旅

止まる、進む

時を表す言葉

やさしく — 家は2軒にして、大人が運転し、子どもが傾けます。

難しく — ごみ箱を出していない家があります。止まる？ なぜ止まらない？

注目ポイント

お子様は各家で止まってから次へ進み、次に向かう家がわかっていますか？ ごみ収集の順番を覚えて行動することは、順序立てる力の実践です。

3 どのごみ箱？

2〜4歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

容器2つ。きれいなくずを少し（紙きれ、ペットボトルのふた、アルミ箔の切れ端、厚紙の筒）。

進め方

1. 2つの容器を見せます。「こっちは紙。こっちはびんとふた」。
2. くずを1つずつ渡します。「どっちのごみ箱？」子どもに選んで、理由を言ってもらいます。
3. 両方がいっぱいになったら、1つずつトラックに傾けて入れます。
4. 新しいルールでもう一度分けます。やわらかいものと、かたいもの。

学びのねらい

分類

推論

素材

語彙

やさしく — まったく違う2つだけにします。紙とびんのふた。

難しく — どちらにも合わないものを加えます。どこに行く？

注目ポイント

ものがごみ箱に入る理由を言えますか？「紙だから」「かたいから」はルールのある分類です。変わったものに悩む子は、あてずっぽうではなく考えています。



4 運転手とごみ収集作業員

3〜5歳
子ども2人+大人

用意するもの

トラック、容器2つ、フィギュア2体。道沿いの家3軒。

進め方

1. 1人が運転手役、もう1人がごみ収集作業員役になります。それぞれフィギュアを1体ずつ持ちます。
2. 運転手が家の前でトラックを止めます。ごみ収集作業員がごみ箱を取り付け、取っ手を引きます。
3. ごみ収集作業員が「出発！」と言ったら、運転手がトラックを次の家へ走らせませす。
4. 半分まわったら、役を交代します。

学びのねらい

協力 順番を待つ 聞く力 ごっこ遊び

やさしく — 1回目は大人がごみ収集作業員役になります。

難しく — 子ども3人で、運転手、ごみ収集作業員、ごみ箱を出す住民の役を分担します。

注目ポイント

運転手役のお子様は「出発！」の合図を待てますか？ ごみ収集作業員役のお子様は合図を出せますか？ 2人で協力しなければ進まない仕事だからこそ、協力する力を観察できます。

5 いっぱい、からっぽ

3〜5歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

容器1つ、トラック、同じようなくずの山（紙のボールなど）。

進め方

1. 空の容器を見せます。「いくつ入るかな？」予想して、覚えておきます。
2. 1つずつ数えながら入れます。いっぱいになったら止めます。「いくつ？」
3. 予想と比べます。思ったより多い？ 少ない？
4. トラックに傾けて入れます。「トラックはいっぱい？ あと容器何個でいっぱいになるかな？」

学びのねらい

見積もり 数える 容量 比べる

やさしく — 先に予想せずに、数えて入れます。

難しく — 両方の容器を満たします。同じだけ入る？ 数えて確かめます。

注目ポイント

数える前に数を予想することは、数量を見積もる力につながります。最初の結果を踏まえて次の予想を修正できるお子様は、経験から得た情報を判断に生かしています。

6 どこにおく？

4〜5歳
子ども2〜4人+大人

用意するもの

いっぱいのトラックとフィギュア2体。車庫に見立てた箱。あれば新しい紙のロールや新しいびんの絵。

進め方

1. いっぱいのトラックを車庫まで走らせませす。「さあ、どうなる？」
2. 紙をあげます。「古い紙はどこへ行く？」古い紙から新しい紙ができることを話します。
3. びんをあげます。「これは？」古いびんから新しいびんができることを話します。
4. 「なぜ先に分けるのかな？」と尋ね、子どもたちに考えてもらいます。

学びのねらい

世界を知る 推論 話す 素材

やさしく — 紙だけにします。古い紙が新しい紙になります。

難しく — 1か月、誰もごみ箱を集めに来なかったらどうなるか尋ねます。

注目ポイント

「〜だから」など理由を表す言葉に注目し、ごみを分別すること、その後の処理を結びつけて考えているか観察しましょう。分別する理由を理解することで、単なる作業ではなく、その意味を考えられるようになります。

